慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アトピー性皮膚炎の漢方治療
Sub Title	
Author	荒浪, 暁彦(Aranami, Akihiko)
Publisher	慶應医学会
Publication year	2003
Jtitle	慶應医学 (Journal of the Keio Medical Society). Vol.80, No.4 (2003. 12) ,p.152-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	話題
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069296-20031200-0152

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

行するとACSを併発し救命できるはずの外傷患者を失うことにもなりかねない．したがって，DCSの適応は慎重におこない，外傷外科医は臓器損傷出血に対する通常の止血方法に熟知していなければならない．

北野光秀（済生会神奈川県病院　救急部・外科）

アトピー性皮膚炎の漢方治療

アトピー性皮膚炎の治療薬はステロイド剤を中心とする免疫抑制剤です．これは誰もが認める薬ですが，免疫反応を正常化できる薬があればさらに強力な武器になります．私は十数年，アトピー治療に漢方薬を使用してきましたが，この薬に免疫正常化作用があるようです．漢方薬は充分に薬理作用が解明されていませんので，とっつきにくい薬ではありますが皮膚科ではほとんど行われていないアトピーの漢方治療についてご紹介させていただきます．

＜漢方薬が異常な免疫機能を正常化する？＞

アトピー性皮膚炎発症の原因の一つとしてTh1/Th2バランスがTh2優位な状態になっていることが挙げられます．私達はアレルギー疾患が漢方薬により改善されていく過程で風邪をひきにくくなったという訴えをしばしば耳にします．また多発，慢性化していた伝染性軟属腫や尋常性ゆうぜいが急速に消失していくのを経験します．特に柴胡剤という種類の漢方薬投与により，風邪をひきにくくなる事は東洋医学の世界では当たり前の事です．これは漢方薬によりTh1/Th2バランスが是正されたためと考えても良いかと思います．基礎研究でも十全大補湯，補中益気湯，梔子柏皮湯等がTh1/Th2バランスを改善させるという報告があります．ただし十全大補湯，補中益気湯がすべての患者さんに有効かといえば，まったく違います．漢方薬は東洋医学の概念に基づいて投与されなければ無効または有害になります．以下簡単に御説明します．

＜気血水の概念＞

東洋医学では人間の体は気（≒自律神経系），血（≒内分泌系），水（≒免疫系）が密接に関わりあいながら維持されていると考えられています．このいずれかが異常になり，バランスが崩れると病気になります．アトピーはストレスで増悪したり，月経時増悪したりします．そのため免疫機能（水）を正常化するために自律神経系（気）や内分泌系（血）の治療からアプローチした方がよい場合があります．幸い漢方薬には，気・血・水の治療薬が年齢や体質に応じてたくさんあって，自律神経系－内分泌系－免疫系のネットワークバランスを総合的に改善していく事が可能です．

さて皮膚病の漢方治療は大きくわけて標治と本治があります．

＜標治療法＞

皮疹の症状を診て漢方薬を決定，投与する治療法を標治といいます．皮疹は紅斑→丘疹→小水疱→膿疱→湿潤→苔癬化という状態をたどり，それぞれの段階から結痂，落屑になって治癒します．漢方治療においては紅斑には黄連解毒湯や白虎加人参湯等，丘疹には十味敗毒湯や茵蔯蒿湯等，小水疱には消風散や柴苓湯等，膿疱には排膿散及湯や十全大補湯等，湿潤には桂枝加黄耆湯や消風散等，苔癬化には温清飲や荊芥連翹湯等，それぞれの性状に応じた治療薬があります．

上記の薬は一部の代表的な漢方薬です．一人として同じではない個々の患者さんの皮疹に対し適切な漢方薬を選ぶことによりオーダーメイドの治療ができます．

＜本治療法＞

東洋医学では皮膚病はある日突然そこに生じたものではなく，体の内部の歪みのサインの一部にすぎないと考えます．アトピーを治療するためには歪みの根本的原因を探り，それを治療する漢方薬を投与しなければなりません．従って，皮膚病であっても消化器系や内分泌系治療薬に分類される漢方薬が必要になります．しかし内部の歪みといってもただ患者さんをボーとみていてもなにもわかりません．そこで脈を触ったり（脈診）舌を診たり（舌診）お腹を触ったり（腹診）する診察法が発達しました．これらは東洋医学ではレントゲンや血液検査と同等に重要なものです．

特に腹診なしでは皮膚病といえども適格な漢方薬を選ぶ事はできません．腹診はわからないから嫌だとおっしゃる先生方がいらっしゃいますが，長い年月をかけて先達が一つ一つの漢方薬に対応する腹診を決めてくれているのでこれをマスターすれば投与すべき漢方薬をかなり絞り込むことができます．

私はまだまだ未熟者で大きい事は言えませんが，皮膚病治療に漢方薬を併用して以来，今では手湿疹でも漢方薬が欠かせなくなっています．まだ使用した事のない先生方，是非漢方薬を治療の選択肢に加えてみる事をお推めします．

荒浪暁彦（あらなみクリニック）

動物実験に関連する法規の見直しと研究者の責任

たとえヒトの生命を救ったり健康を増進する医学研究のためであっても，動物実験に対してはさまざまな批判や反対運動があるが，慶應医学の読者には，それらを改